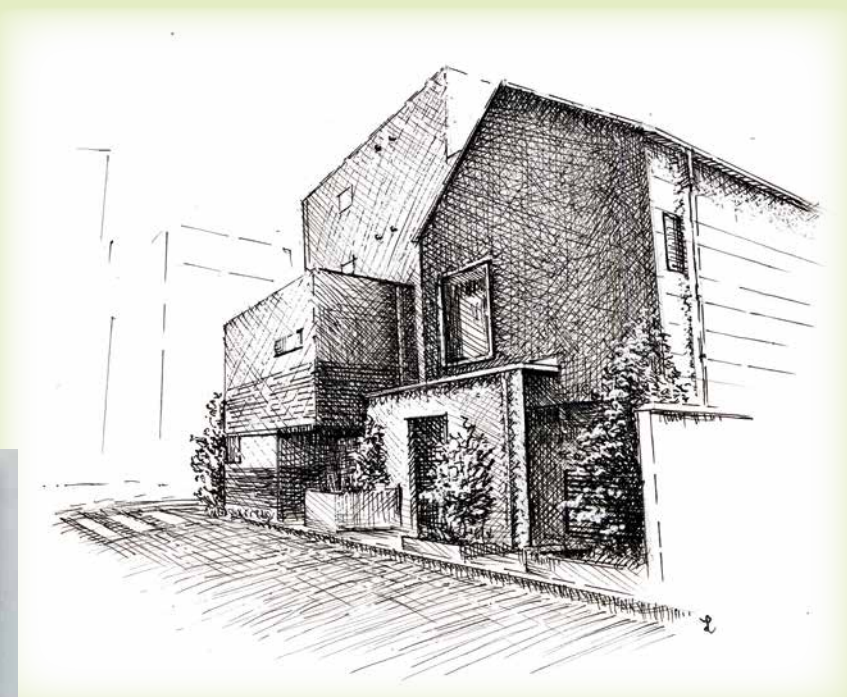


特定非営利活動法人今井館教友会

内村鑑三記念今井館 新築移転事業

募金趣意書 第二年度



新今井館(スケッチ:川中子義勝)

皆様方には、ご平安にお過ごしの御事と存じます。

皆様のお祈りとお支えにより、昨年9月末に新今井館が完成いたしました。その後、引越も済み、現在、図書・資料を整理いたしております。新築移転事業のため3年計画で皆様からの募金をお願いしておりますが、2021年度は700名近くの多数の方よりご寄付を頂き、昨年度の目標金額を越える募金を頂戴しましたことを募金委員一同深く感謝申し上げます。募金計画も2年目に入りますが、今後とも引き続きご協力いただきたくお願い申し上げます。

2022年4月

特定非営利活動法人今井館教友会 内村鑑三記念今井館新築移転事業募金委員会

【委員長】大山綱夫

【以下委員】安彦忠彦、荒井克浩、上原和幸、加納孝代、川中子義勝、小林孝吉、鷺見八重子、玉井慎一、西永 頌(募金事務局担当)、
坂内宗男、廣瀬治基、藤田 豊、森山浩二、矢田部干佳子、山本 浩、脇阪 昭

事業趣意書

内村鑑三は、明治以降の日本近代の思想家として、後世に最も大きな影響を残した人物の一人です。その内村が生前長く愛用した今井館聖書講堂は、1907年大阪の香料商、今井樟太郎の遺志により新宿区柏木にあった内村邸内に建てられ、内村鑑三は亡くなる直前までここで聖書講義を続けました。しかし内村の没後、内村邸が区画整理により立ち退きを求められたので、目黒区中根の借地に移築しました。第二次大戦後間もない頃、矢内原忠雄が今井館で聖書講義を行いました。この様子は長谷川町子の「サザエさんうちあけ話」に描かれています。その後、篤志家のご寄付により今井館資料館を増設、図書や資料等の保管・利用サービス等の充実を図ってまいりました。



内村鑑三(石河光哉画)
(今井館蔵)

しかし、時代と共に地代が高騰し、ここ10年は年間700万円近くの地代を払うに至りました。このような状況下では早晩今井館の資金が枯渇すると予想され、いずれ、図書・資料の保管先を探し、今井館は閉館するのやむを得ないとの考えに至っておりました。ところが、約4年前、文京区本駒込の土地を固定資産税・都市計画税の合算額を地代として、地主の利益なしでお貸しするとの提案がありました。この提案によれば今井館の運営経費の負担は軽減され、今井館事業を継続してゆく見通しが立つことから新築移転を決定し、移転計画を立案し、具体化を進めてまいりました。

その後、中根の地主から借地権売却の了解も得られ、建設業者も決まり、本駒込に新しい今井館の建設が開始され、2021年9月末に新築今井館建物の引き渡しが行われました。新しい今井館の場所は、都心、内村鑑三と関係の深い東京大学にも近い文京区、しかも柳沢吉保の造った名庭園六義園(りくぎえん)がある閑静な住宅街・大和郷(やまとむら)です。内村鑑三は現在の文京区本郷の生まれであり、いわば内村生誕の地に戻ることにもなります。土地柄から、キリスト教関係者はもとより、広く一般の方々、特に、若い方々も来館しやすくなると期待されます。

新しい今井館の3、4階には6戸の住宅を作り、貸家として収入を得、運営費の一部に充てる計画です。目黒区中根に今井館が移築されたときには同様の目的で貸家を所有しておりましたので、その形式に戻るわけですが、このように住宅を所有すると住宅地として課税されますので税金が大きく低減されるという利点があります。

新しい土地に今井館を新築移転するにあたり、必要な資金はこれまで一定額用意しておりますが、この際、一人でも多くの有志の方々にこの事業の費用の一端を担って頂けるよう、募金を呼び掛けることと致しました。内村鑑三およびその教えを継ぐ者たちの著書、伝道雑誌、多くの資料を整理し、とくに伝道雑誌や資料についてはデータの電子化を一層進めるとともに、今井館の活動を全国にお知らせするためホームページの拡充・強化にも努め、より広く一般の方々のご利用に供する予定です。さらに今井館施設・設備の近代化を図り、利用者の便宜の向上をも図

る所存です。また今井館の建つ新たな土地は将来的に遺贈されることが遺言によって約束されているため、今井館を安定的に存続させることができる意義には大きいものがあります。遺贈の際に発生するみなし譲渡税の一部についても本募金により準備する計画です。



1-2階 階段踊り場の壁に設置されたステンドグラス(中沢治樹氏寄贈)。閲覧室からの光で輝く。

以上の移転事業を行うための資金として5,000万円の目標を掲げました。何卒、上記の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新しい今井館のご紹介

今井館は4階建てで、1階には今井館の事務室、閲覧室、書庫があり、2階には聖書講堂、集会室1, 2, 3があります。集会室2, 3は仕切りを取ると中集会室として利用できます。3～4階には賃貸住宅があり、1LDKが4部屋、ワンルームが2部屋あります。



2階聖書講堂

奥には大きな嵌め込みの窓があり、外が見えます。催し物がある時はこの写真のようにロールカーテンで閉めます。左奥にはグランドピアノがあります。天井には三つの天窓があり、自然光が差し込みます。



1階閲覧室の中の書架



新今井館東側「今井館テラス六義園」入口前の植栽
背の高い二本の木はオリーブ(左)とメラレウカ(右)、
背の低い白い葉の植物はホワイトソルトブッシュです。



新今井館の南側

3, 4階は「今井館テラス六義園」の住居で、各階二つの1LDK住戸の間にワンルーム住戸1つがあります。1階は閲覧室、事務室、書庫で、南側窓が見えています。2階には第1、第2、第3集会室があります。

今井館の蔵書・資料

今井館では内村鑑三とその思想を受け継ぐ人々の著書約1万点を集めています。また、著書以外にも多くの資料を保存しており、それらのまとまった形での収集は、他に類をみないところです。特に、内村鑑三の「聖書之研究」はじめ多数の伝道雑誌を収集、電子化しております。内村鑑三、藤井武、塚本虎二、黒崎幸吉、矢内原忠雄など独立伝道者が福音を伝える手段は雑誌でした。このような、著名な方々の伝道雑誌を含め、多数の方々が生涯をかけて福音を伝えた伝道雑誌を集め公開しているのは今井館だけであろうと考えます。是非、多数の方々がご利用になり、先達の福音伝道の熱意を感じていただければ幸いです。また、伝道雑誌は現在出版されているものも収集・保管しています。

電子化が済んでいる伝道雑誌には、聖書之研究（内村鑑三）、旧約と新約（藤井武）、聖書知識（塚本虎二）、キリスト教常識（塚本虎二）、日本聖書雑誌（畔上賢造）、永遠の生命（黒崎幸吉）、復活の生命（黒崎幸吉）、嘉信（矢内原忠雄）、聖書第一年（鶴田雅二）、聖書の言（石原兵永）、待晨（酒枝義旗）、聖書の日本（政池仁）、ちとせのいわ（中山博一）、求道（藤澤武義）、預言と福音（関根正雄）、聖書愛読（前田護郎）、十字架の言（高橋三郎）、小さき声（松本薫）ほかがあります。これらは雑誌記事検索システムを運営するある出版社と連携することで、より一般的で広範囲の検索が可能になりました。収蔵伝道雑誌は全部で300タイトルに上り、順次電子化の予定です。

さらに、塚本虎二、矢内原忠雄、白井きく、酒枝義旗、黒崎幸吉、関根正雄、中沢治樹、前田護郎、高橋三郎ほかの方々の聖書講義・講演会のテープ（あるいはCD）を保管しており、この方々の肉声を聞くことができます。

昨年度頂戴した移転事業募金により図書館の管理ソフト「エリーゼ・エッグ」を導入しました。このソフトは今井館の全蔵書にバーコードを貼付して貸出・返却・蔵書一斉点検などの蔵書管理を効率化するとともに、今井館の蔵書のインターネット検索を可能にするものです。

募金計画

募金目標額： 2021年度 3,000万円、 2022年度 1,000万円、 2023年度 1,000万円

募金の目的：

1. 内村鑑三およびその教えを継ぐ者たちの著書、伝道雑誌、資料を収集・整理し、伝道雑誌や資料の電子化を進め、内村とその周辺の人々に関心をもつ一般の方々の、資料や施設の利活用に供すること
2. 今井館施設・設備の充実と近代化
3. ホームページの拡充・強化
4. 本駒込の土地遺贈に対するみなし譲渡税への準備
本駒込の地主とは、将来今井館が立地する土地を今井館教会に遺贈する合意書を取り交わしております。その際に発生する「みなし譲渡税（約6,800万円）」に備えるため本募金から2,000万円を用意する予定です。都心にある本駒込の地価はみなし譲渡税の何倍もし、それが遺贈されることから、理事会としては最低この程度の準備はする必要があると考えております。
5. 内村鑑三及び彼につらなる人々の思想と活動を一般に紹介する事業に対する助成の拡充と強化
6. 今井館が収集・所蔵する多くの貴重な資料を展示するスペースの新設

募金期間： 2021年4月～2024年3月

募金方法

下記募金事務局までお問合せ下さい。

募金事務局：

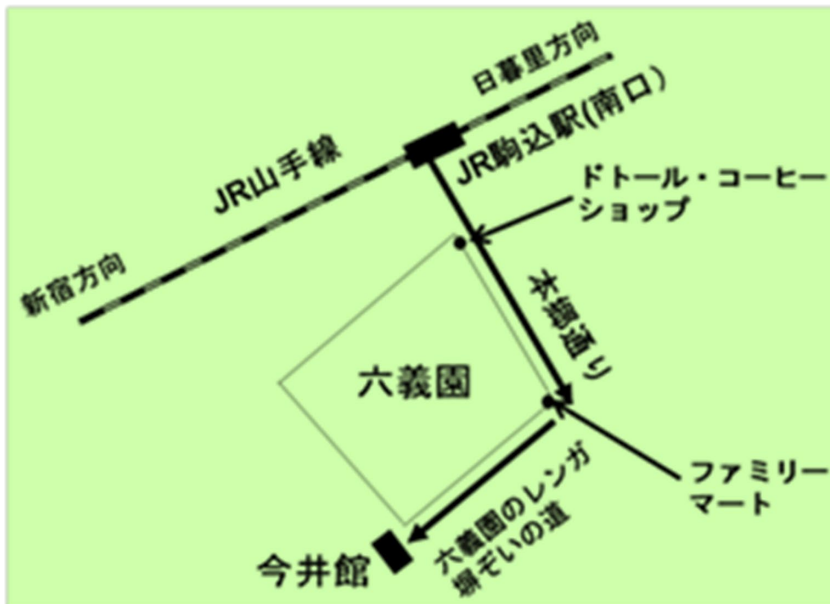
〒277-0043 千葉県柏市南逆井4-11-4

西永 頌

TEL/FAX : 04-7176-1292

email: imaikan.bokin@td6.so-net.ne.jp

今井館の場所



JR 駒込駅より徒歩 10 分。他に、地下鉄三田線千石駅にも近い。